

児童養護施設における 問題行動分析と実践例

—生活記録に対するテキストマイニングの活用—

千葉県中央児童相談所

佐名 隆徳

児童養護施設で生じる問題について

- 児童養護施設: 様々な事情を抱えて保護者とともに生活のできない児童らが集団で生活する施設。主に児童相談所で保護→施設へ
- 児童の問題行動↓(佐藤, 2019)

規則違反: 「性的な問題」「放火する」「家の外で盗みをする」「器物破壊」「酒を飲んだり, 病気のためでなく薬を使っている」「家出をする」「家の中で盗みをする」「やってはいけない事をした後でも悪いとは思わないようだ」

攻撃行動: 「人に暴力をふるう」「他人に残酷で, いじめたり, いじわるしたりする」「人をおどす」「家族や他人の持ち物を壊す」

暴力の課題は多くの児童養護施設が抱えている

過去の児相資料を使用した 施設内加害構造のアセスメント

- 施設の過去の児童間問題，問題に関わった加害・被害児童の直近3～4回ほどの児童福祉司意見と心理診断票を確認
 1. 児童の成育歴や特徴が被害加害にどのように絡んでくるか
 2. 過去のA施設の対応と児童相談所の指導がどのようなものであったか
 3. 各児童間問題に対して改めてアセスメントを行い，十分行えていた対応・必要であった対応・やるべきでなかった対応などを確認

⇒施設における加害サイクルの一般化を目指した

過去の児相資料を使用した 加害再発サイクルのアセスメント結果

- ① 犯罪・再犯リスク因子への知識不足＋人的リソース不足により、「再犯リスクが存在し続けている」状態が継続している(次頁参考)
- ② 施設の非暴力ルール＜加害児童による支配という強固な構造
- ③ 集団に依存するメカニズムが施設にある
- ④ 加害に至る心理的機序や要因の複雑さから、そのアセスメントが曖昧なまま対応が進んでいるケースが一部存在している

⇒施設全体の環境改善の必要性が示唆

参考)再犯のエビデンス セントラルエイト リスク・ニーズ要因

- 施設内の問題は、暴行や窃盗といった犯罪行為の繰り返しという視点から再犯リスクを検討するという視点も求められる
- 代表的なものにセントラルエイト リスク・ニーズ要因 (Bonta & Andrews,2017)

犯罪歴, 犯罪指向的態度, **犯罪指向的交友**, 反社会的パーソナリティ・パターン, 家族・夫婦, 学校・仕事, 物質乱用, レジャー・レクリエーション(余暇活動)

これらのリスクがどうフォローされているかも併せて検討する。

加害サイクルの防止構造の策定

- 個別的な介入(子どもへの支援)
- 支援資源の構築(施設の外への支援)
- **環境への介入(施設の中への支援)←今回のメイン**

加害サイクルの防止構造の策定 個別的な介入

- 児相の心理司等による専門的な心理教育の徹底(②への対応)
- エビデンスに基づく再犯リスク因子に関わる支援システムの構築(①への対応)

加害サイクルの防止構造の策定 支援資源の構築(①,②,③への対応)

- 寺子屋:不登校児童への学習支援サービス
地域の同年代の他児との横のつながり→施設内で完結する閉鎖的な児童関係性が変化→**犯罪志向性集団の解体**
不登校という同一体験を共有できる**他児との情緒的交流**で施設児童自身のフラストレーション解消
- フードパントリー:食品等を身近な地域で無料で配付する活動に参加
施設の地域貢献イメージ向上からの**地域の協力体制強化**
施設の児童の**自己肯定感**や**仕事の感覚**の獲得

加害サイクルの防止構造の策定 環境への介入(②,③への対応)

- 問題行動とその他の要因との関連を客観的に分析

施設の職員と連携し、子供の行動記録を使用したテキストマイニング分析(面接記録などの文章データを元に分析する手法の総称)を実施

- 主に分析として共起ネットワーク分析の結果を参考にした

共起ネットワークとは文章内で出現する単語のうち、単語同士の距離が近いか遠いかを計算し図示したものである。

行動記録とExcelデータ例 (注: 左右は異なるケース)

- 家庭引き取りの見込みはなく母にも「引き取れない」と言われているが他児に「帰れるんだ」と話すことがあった
- 面会希望がある
- 加害の兄については「良い兄」と言う。他児がきょうだいのお話をするときに出す程度、本児から積極的に話すことはない
- 睡眠は落ち着いている。学校で嫌なことがあると寝付くのに時間がかかることがある
- カッとなると相手に強い言葉をかけたり長く責め立てる姿がある。1日経てば切り替えられるがふと思い出してまた怒ることがある
- ホームとしては異性との距離感やストレスの対処法を学んでほしい。しばらくはホームで行い、今後通所も検討していく

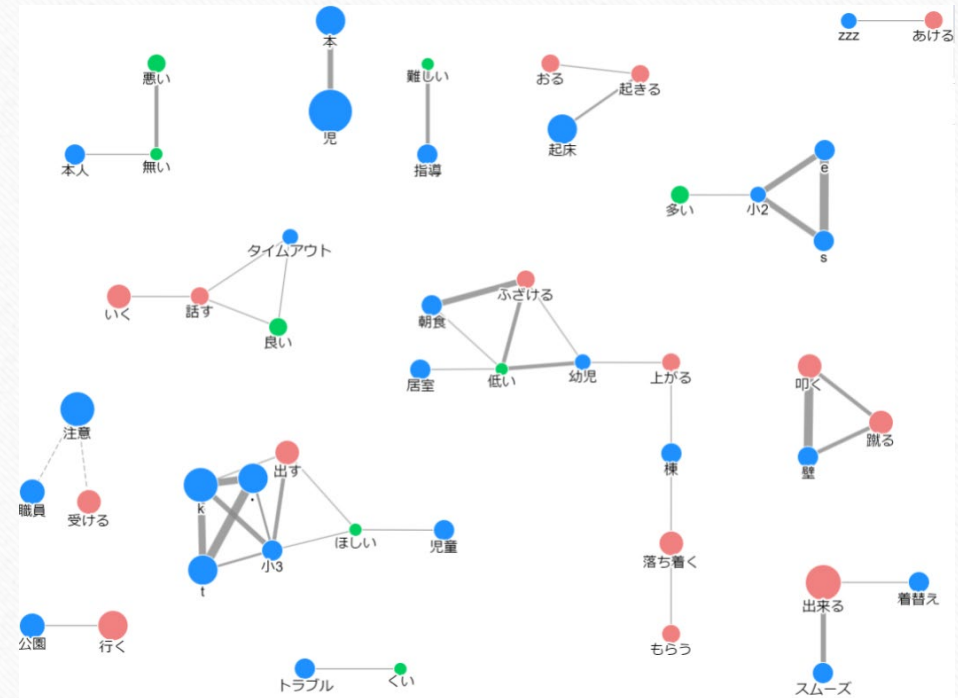
かける 責め立てる	かける	責め立てる	1
姿 責め立てる	姿	責め立てる	1
強い 責め立てる	強い	責め立てる	1
相手 責め立てる	相手	責め立てる	1
言葉 責め立てる	言葉	責め立てる	1
担任 舌打ち	担任	舌打ち	1
睨む 舌打ち	睨む	舌打ち	1
S 叩きつける	しょうき	叩きつける	1
スマッシュ 叩きつける	スマッシュ	叩きつける	1
バドミントン 叩きつける	バドミントン	叩きつける	1
下 叩きつける	下	叩きつける	1
兄妹 叩く	兄妹	叩く	1

共起ネットワーク分析

メリット: 客観的な指標を持って把握

「壁に殴る蹴るをしている」「朝食時にふざけて、何らかの流れを経て落ち着いている」「児童kやtと関りがあるようだ」

課題: 1. 問題行動中心の把握になっ
てしま、2. 時間軸や前後の関係性把握の
困難さ、3. 児童間暴力, 職員から児童へ
の暴力, 児童から職員への暴力の3つの
暴力について包括的に扱う(田寫,2011)と
いう点では不十分



結論

暴力問題は

1. 生活記録を、分析に耐えるフォーマットや記録方法を使用していく
2. テキストマイニングで客観的に暴力構造を分析していく
3. そのうえで、環境調整や個別対応などを行っていく

その他、活用できそうな分析は活用していきたい